

研究概要

I 本校について

本校は、創立114年目を迎えた歴史と伝統のある学校である。横浜市の中心に位置し、学区には、中央図書館、野毛山動物園、開港記念会館、県立音楽堂など、数多くの有名な公共施設が点在し、活用しやすい環境にある。学校周辺には、昔ながらの老舗や地域に根差した人々が生活するまち並みも広がっており、一方では、一步足を延ばせばみなとみらい地区の新しい商業施設が多く見られ、歴史と近代技術が融合したまちである。そして、そこには多くの魅力的な人が存在する。子どもたちの成長のために力を貸して下さる施設や企業の方々、登下校を見守り声をかけて下さる地域の方、本校の卒業生やその保護者など、子どもたちの成長を楽しみにして下さる地域の方々が多い。このような恵まれた環境の中で、本校では「本物（人・もの・こと）にふれる」ことを大切に様々な活動に取り組んできた。

また、4年前に、本校の児童数増加に伴い、みなとみらい地区に新たに「みなとみらい本町小学校」が建設されることが決まり、今年度から児童の3分の1は、みなとみらい本町小学校に通っている。学校が2つに分かれたことで、新たな一步を踏み出したところである。

II 研究主題・副主題について

1 研究主題

生き生きと未来を創造する子どもの姿をめざして
～個のみとりをもとに、子どもの思いや願いをつなぐ授業づくり～

2 研究主題設定の経緯

近年、AIの急速な進化により、20年後までに子どもの約65%は、今はない職業に就くことになる予想されている。これからの社会を生きる子どもたちは、そのような予測困難な未来を生き抜く力が必要である。また、本校には、外国籍、外国につながる児童が全体の約20%在籍している。日本語の理解が難しい児童も多く、それ以外の児童も学力差が大きい。本校では、だれもが安心して豊かな生活を送れる学校をめざしており、すべての子どもが目の前の問題を自分ごととしてとらえ、自分たちで考え、解決していく力を育てていきたいと考えた。

そこで、昨年度から、研究主題「生き生きと未来を創造する子どもの姿をめざして」を設定し、生活科と総合的な学習の時間の研究に取り組んでいる。そして、次のような子どもの姿をめざしている。

「生き生きと」とは

一人ひとりが思いや願いをもって活動する子どもの姿

「未来を創造する」とは

自ら課題を見つけ、解決していこうとする姿

困難な状況にも立ち向かい、未来を生きる力を身に付けた子どもの姿

3 昨年度の成果と課題

○成果

- ・子どもたちが一つの材にのめりこんだり、とことん追究したりすることのよさに気付いてきている。
- ・地域に対する子どもたちの思いが強くなってきた。
- ・本物との出会い、体験活動によって、主体的に学ぶ子どもや、協働的・対話的に学ぶ子どもが増えた。
- ・「おもしろそう」「やってみたい」という思いをもって取り組むことで、自己肯定感が高まったり、みんなで活動することのよさを感じたりするようになってきた。

○課題

- ・すべての子どもが思いや願いをもって学習に臨んでいるわけではない。
- ・材の教材研究が充分ではなく、単元構想が練りきれていない。
- ・本時の中で学ばせたいことが、明確にできていない。
- ・教師の出と待ち、発問、板書など、1時間の授業づくりに課題がある。

生活科・総合的な学習の時間の研究をスタートさせた1年目は、子どもたちの思いや願いを大切にしながら体験活動を充実させることで、子どもたちの主体的な姿や協働的な姿につながることが分かった。一方、体験活動のつながりや1時間の中の学ばせどころの吟味に課題が見られた。

そこで、今年度、副主題を「個のみとりをもとに、子どもの思いや願いをつなぐ授業づくり」とし、研究の柱として「単元構想」と「1時間の授業づくり」に重点を置き、研究を進めることにした。

Ⅲ 研究内容

1 体験の充実を図った単元構想

本物（人・もの・こと）にふれることで、思いや願いをもつことができる考える。そしてそれがより深い気付きにつながり、思いや願いを高める。さらに、体験活動のつながりや学びの過程を意識することで、主体的に学び、生き生きと活動する子どもたちの姿をめざしていく。

- ・人との出会いは、子どもの必要感があったり、自然な流れになったりしているか。
- ・くり返し本物にふれているか。
- ・学びの過程を意識した構成になっているか。

2 子どもの思いや願いを大切にした1時間の授業づくり

前時に書いた子どもの振り返りをもとに、子どもの思いや願いを座席表にまとめる。本時の中で、子どもたちにどのようなことに気付かせたいのか、教師が学びどころをはっきりともつように分析する。そうすることで、どのような発問をし、どのような板書をするかなど、どのような手立てをとればよいか、吟味する。また、次時の見通しを子どもと共にもったうえで振り返りを行うことで、次時につなげるようにする。

- ・次時の見通しをもった本時の振り返りになっているか。
- ・子どもにとって必要感のある1時間になっているか。
- ・構造的な板書になっているか。
- ・学習形態や学習環境は適切か。
- ・教師の出と待ちは適切か。

IV 研究方法

1 授業研究会

(1) ねらい

日々の授業実践と合わせて、授業研究会を行うことを通して、授業の優れた点や問題点について検証し、授業改善、授業力向上につなげるとともに、研究主題に迫ることをめざす。

(2) 進め方

①指導案検討

研究部会（低、中、高学年部会）ごとに指導案の検討を行う。指導案検討後については、学年研の際に学年のメンバーで検討をし、必要ならば研究部会でさらに検討する。

②本時まで

前時までの子どもの思いや願いを座席表をもとに分析し、本時目標や本時の手立てを構想する。学年や研究部会で模擬授業を行い、本時目標の妥当性や発問、板書などの手立てについて吟味する。

③本時

授業記録をとり、協議会に役立てる。参観者は、各自の方法でメモを取りながら授業を参観する。授業後に、授業の優れた点や問題点のキーワードを短冊に書き、協議会でもちよる。

④部会協議会

もちよった短冊を模造紙にはり、可視化してから議論を始める。本時の優れた点や問題点を明らかにして、その要因や改善点について議論する。協議会には、講師の先生にも入っていただき、その都度ご指導をいただく。会の最後には、まとめてご指導をいただく。

⑤全体会

部会協議会後は全体会を行い、各部会でご指導をいただいた講師の先生方のお話を聞く機会を設ける。各部会での議論の内容や学校としての成果と課題を共通理解する場とする。

2 研究講演会

(1) ねらい

職員が日々実践を進める中で、疑問に思っていることや授業研究会を通して明らかになった問題点をもとにテーマを決めて、日々の授業実践、授業改善に必要な情報を得る。

(2) 日時

平成30年7月30日 15:30～

(3) 講師

横浜国立大学教育学部附属教育デザインセンター 教授 大内 美智子先生

(4) テーマ

「生活科・総合的な学習の時間の内容と単元構想の考え方について」

3 研究組織と構成

(1) 重点研推進委員会

研究の推進を行う。また、各学年に推進委員会で出たことを報告したり、各学年の意見を持ち寄ったりし、学校全体で研究していく形を大切にする。会の時間は、1時間以内とし、推進委員会で集約した意見をもとに、推進委員長、研究主任、研究副主任でさらに深めるようにする。校長、副校長、研究推進委員長、研究主任、研究副主任、各学年、学習室の代表、専科、国際のメンバーで構成する。

(2) 全体会

推進委員会で決まったことを提案し協議したり、全体で研究について共通理解を図ったりする。全職員で構成する。

(3) 部会

指導案を検討したり、授業研究会で協議したりする。構成は、以下のとおりとする。

- 低学年部会・・・1、2年担任、学習室、国際
- 中学年部会・・・3、4年担任、学習室、国際、専科
- 高学年部会・・・5、6年担任、国際、専科